



第6回かながわ感動介護大賞

～ありがとうを届けたい～

受賞作品

かながわ感動介護大賞実行委員会



はじめに

介護とは、高齢者の夢を一緒に叶えていく仕事ではないでしょうか。

介護の世界で働いている人たちの声は、「楽しい！」「自分が成長できることがたくさんある」「高齢者だけではなく、たくさんの人との出会いがある」など、熱く語る人が多くいます。

たしかに、高齢者と接する介護の仕事は、おむつを取り替えることや、食事の、着替えなどのお世話があり、それは大事な仕事の一つです。しかし、介護の仕事はそれだけではありません。

介護を必要とする状態になっても、少しでも健康になりたい、どこかに行きたい、好きなことをしたい、という希望や夢はあるのです。それを叶えるために、介護の仕事を行う職員は、他の業種の人や家族と話し合いながら、その実現に向けて一緒に考えていくのです。

その夢や希望が叶えられた時、高齢者や家族の笑顔を見ることができるとは、それは、何よりも、かけがえのない瞬間を味わえる仕事ではないでしょうか。

また、高齢者は、その長い人生の中で、とても多くの人生経験をされています。嬉しいことや大変だったこと、苦労したこと、そして幸せと感じたことなど……。そんな様々な経験を乗り越えて、今に至っているからこそ、言葉にしなくても伝わる思いもあります。

数多くの経験を知り、話を聞き、そして何より心に触れることは、他の仕事以上に味わえるもので、大切な学びにもなります。それは、何よりも自分を成長させてくれるものだと思います。

この冊子には、様々な場面での介護の仕事の醍醐味が満載されています。もしかしたら何気ない日常風景かもしれません。それでも、これらのエピソードを通じて、介護の仕事の魅力、そして人々のやさしさに触れていることを想像していただければ嬉しく思います。

介護のイメージが変わり、皆さんとともに介護の仕事が笑顔の「介護文化」として定着していくことを期待しています。

目 次

○受賞作品		
最優秀賞	お風呂気持ちいいねえ……………	1
優 秀 賞	孫まで力を……………	3
	笑顔の循環……………	5
	たくさんの目に見えない プレゼントをいただいて……………	7
佳 作	主夫になりました……………	9
	歯はあっても！……………	10
	ばあちゃんの顔みしり……………	11
	クリクリの目の合図……………	12
	沈黙に秘められた絆……………	13
特 別 賞	私の家の介護……………	14
代表作品	歩むこと……………	15
○第6回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評		16
○かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿		
○かながわ感動介護大賞実行委員会		
○かながわ感動介護大賞協賛法人		

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。

※介護を受けたご本人・ご家族以外からの受賞作品は、ご本人・ご家族からの承諾を得て掲載しています。

「お風呂気持ちいいねえ」

巢内 真理子 様

感動介護を行った職員

株式会社グッデイ

デイサービスセンターグッデイ 合津 智美さん

父は9月で96才。こんな元気な者はいないと人に話します。

そんな父に一番困っていた事は入浴を拒む事でした。

どうしたものかと、主人や息子の手を借りて日帰り温泉や一泊旅行に入浴の為に行きましたが「イヤだ！」と大声を出す始末。

誰も父を説得する事も着替えさせる事もできずほとほと困り果てていました。

そこでケアマネにデイを紹介され、グッデイ施設長に相談すると「お任せください！」と言う返事が返ってきました。

とても心強く感じました。

父の昔話に熱心に耳を傾け、喜ばせて下さり伸びきった爪を切ってくれました。

スタッフの上手な声かけで入浴でき「気持ちいいねえ」と言う様になり、他利用者様に「休むと寂しいよ」と言われる様にまでなりました。

デイでは一日の様子を毎回写真に撮ってノートに貼ってくれます。

それが家族の安心と信頼感になっています。

父の楽しそうなデイの様子を目のあたりにすると、この年齢になっても新しい自分の世界が出来ているのだと感動します。

送迎時多くの手を借り、単に優しいだけでなく一人の人間として認めて貰っている事を感じます。

「励ましの根本は聴くことにあり」と感じます。父は今では通勤する様に早朝から顔を剃り、髪を整え、自分でコーヒーを入れ、帰宅すれば雨戸を閉め、ベッドの母の様子を気にかけています。

在宅で元気に暮らせていけるのも皆様のお蔭と感謝で一杯です。

▽講評△

入浴拒否の強い96歳の高齢者（父親）が、デイサービスに通いはじめ、施設の努力で徐々に入浴が出来るようになった喜びを介護者の娘さんが感動をもつて語った事例です。文章からも安心感や信頼感を増していく様子が如実に伺えます。

通所が決まり、親身な昔話の聞き取りなども始まります。また、利用者が入浴を楽しめ一日楽しく過ごせるよう、職員一丸となって研修や会議等で話し合われていたようで、それが今回の結果につながったのだと思われます。従事者には「90代での新しい世界の展望」「一人の人間として認められている」「励ましの根本は聴くことにあり」との感想は、何よりの励ましとなりましょう。

感動介護を行った職員

株式会社グツデイ

デイサービスセンターグツデイ 斎藤 照正さん

私が通っているデイに一ヶ月に1回工作の先生が来ていろいろ教えてくれます。

それを家で作って孫達に教えて喜んでもらっています。

ある時紙をまるめて笛を作って教えてくれました。

でもなかなか音が出ず苦労してやっと音が出る様になりました。

それを家に持ち帰って孫と一緒に作っていて初めはなかなか音が出なかったのですが、こつを覚えたよう
うでうまく音が出ました。

よほどうれしかったらしく学校に持って行って行って教室でみんなで作ったそうです。

初めは出なかった音が出た時みんなが「すごいすごい」と言ってくれたそうです。

それを見ていた先生と一緒に作ってみたがうまくならず、先生に「こうするんだよ」と教えてくれたら
皆の前で「すごいよく覚えたね、勉強もがんばると一番になれるかも」と言われて意気揚々家に帰って
「おばあちゃんすごいね」と鼻高々に云ってました。

それから宿題も帰って一番にやり、おばあちゃんの株も上がり孫も自信がついたように見えます。

「又覚えてきて作り方教えてあげるね」と云います。

「工作の先生にお礼を云っておいてね」

それからはデイから帰って来た私に「それ、僕にも作れる」と聞きます。

私達だけでなく孫にまで力をくれてありがとう。

褒めてくれた先生にも感謝です。



▽講評△

デイサービス（通所介護）での笛づくりをきっかけに、お孫さんとの交流につながったこと。さらにその笛を学校の先生、クラスのみんなに教えたお孫さんが先生に褒められたこと。デイサービスでの笛づくりを通して、人と人がつながった心温まるエピソードです。デイサービスにおけるレクリエーションの内容は、書道や俳句などの文化的要素のプログラムや体操などのスポーツ的要素を取り入れたプログラムなど施設によってプログラムに違いがあり様々です。内容は様々でも、人と人を結び、毎日の生活が励みとなるようなサービスが大切であることを改めて感じさせてくれるエピソードです。

宗教法人善了寺 宗教法人善了寺還る家ともに 小川 明子様

私が介護の仕事に就いてから3年が経ちました。その間に、心が揺さぶられるような体験を何度もしました。うれしくて涙が出るような出来事ばかりではなく、ときには辛いことも、もちろんありました。私の至らなさのせいですが、おばあさんを怒らせてしまった怒鳴りつけられたり、混乱したおじいさんにポカリと叩かれたり。そんなときは、そうさせてしまった自分の未熟さや、受けた痛みを抱えて、ずーんと落ち込んでしまっていました。

そんな私が今もこの仕事を続けているのは、Aさんのお陰です。デイサービスに通うAさんは深い認知症で、同じ空間にいても、きつと私たちとは時間も場所も違うところにいたのでしよう、話しかけてもたいてい噛み合わない応えが返ってくるばかりでした。でも、そういったときのAさんの表情といたら！ばあああつと、満面の笑顔を向けてくれるAさんを見て私はいつも、ひまわりのようだな、と思っていました。落ち込んでいたとき、その笑顔にどれだけ励まされ、勇気づけられたことでしょうか。

仏教用語に顔施という言葉があり、笑顔でひとと接することを施しとする、という意味ですが、Aさんのされていたことはまさにこれでした。笑顔を施された私が元氣を得て、ほかのおばあさんやおじいさんに笑顔を還していく。Aさんは、そんな素敵な循環を作ってくださったのです。

Aさんはこの春に施設に移られたため、なかなかあのビッグ・スマイルに会うことはできなくなりまして。けれど、私はあの笑顔を折につけ思い出し、この仕事を続けて行きます。Aさん、ほんとうに、ありがとうございます。

▽講評△

介護を含めた対人援助の仕事では、相手との信頼関係をどう築けるかが大事なことです。

「目は口ほどにものを言う」と言います。良い信頼関係を作るには、言葉はさることながら、視線や表情は大事な要素です。相手が暗い表情や険しい表情でいられると、自分も悲しく、怖い感情に陥ってしまいます。反対に、笑った楽しい表情を見ていると、自分も楽しく元気が出てきます。また、周囲も和やかな活気ある雰囲気になります。

介護の仕事は決して楽しいことばかりではありません。体力的にも精神的にも辛いことも多いはずですが。しかし、利用者と職員がお互いにその存在を認め合い、笑顔で微笑み合うことができる居場所があること、そこから生まれる利用者の笑顔は、職員のやる気や励みの力強いエネルギーになったことと思えます。

優 秀 賞

「たくさんの目に見えないプレゼントをいただいて」

社会福祉法人鈴保福祉会 特別養護老人ホーム柿生アルナ園

田崎 京子 様

大学で栄養学を専攻し30歳で国家資格を取得した私は、管理栄養士としての夢を抱き、職を求めて病院、企業など数々の面接を受けた。そのような折に縁があつて面接に伺った先が、その後27年にわたつて勤める今の職場である。

自分の思いが通じず、時として心が折れそうになることもあつた。そんな時に、私を励まし勇気づけてくれたのは、他ならぬ入所されているお年寄りたちであつた。

私がチームをまとめられず自分の能力の無さにしよげていた時、側に寄つて一生懸命つながらない言葉で話しかけてくださり、シャツの一番上のボタンを留めてくれた。些細なことではあるが私の気持ちは楽になつた。

そんなご利用者さんたちの隣に座つて黙つてお話を伺っているとなぜだか涙が出そうになる。緩やかな時の流れと共に心が洗われる感じがするのだ。本心を見られているのだと思う。

お年寄りの体の健康管理を、試行錯誤しながらもどうかこなしてこられたのは、共に働く職場のメンバーの協力があつてこそだが、何よりも人生の大先輩から知らず知らずのうちに戴いていた言葉が、私自

身の「心の栄養」になっていた。大変ありがたいことだ。今食べたことがわからなくなってしまわれる方もおられるが、一瞬でも美味しいと感じて頂けたらそれでいい。お年寄りの笑顔が私の仕事のやりがいでもある。

大先輩方から教えて頂いた「心の栄養」を今度は私自身が提供できるように、そして施設内に留まらず施設外にも目を向けて食支援を続けていきたいと思う。

▽講評△

老人ホームでの「介護」というと、介護職員がクローズアップされがちですが、田崎さんは、管理栄養士として「食の支援」をしている中で、利用者からもらった温かい気持ちを感じ取り、心が触れ合った瞬間をエピソードとして投稿してくれました。

田崎さんの関わりは、職員としての一方向的な支援ではなく、相互のふれあいを大切にされています。利用者が長年人生を重ねてこられたこと、そうした人生経験から滲み出る柔らかいまなざしに、ご自身も「心の栄養」を受け取っていることがよく伝わってきます。また、利用者からもらった「心の栄養」を、老人ホームのご入所者だけではなく、地域の方たちにも届けていきたいという思いが感じられ、応援したくなりました。これからも、食の支援を通して、利用者へ元気を提供するとともに、ご自身も元気に生き生きと活躍してほしいと思います

佳作

「主夫になりました」

関矢 克彦 様

感動介護を行った職員

社会福祉法人 湘南福祉協会

湘南ケアセンター追浜居宅介護支援事業所

奥原 由美子さん

家の階段を滑り落ち、2ヶ月半の入院生活後介護4で、私には介護は無理と云われたが、我を通して家に連れ帰り妻の介護生活に入り、早いもので3年が過ぎました。

今は介護2に回復し、我が家も妻ファーストで全ての時間が流れていきます。先日大山のぶ代さんを介護されていた夫の言葉に「娘になった妻」の言葉を聞いて、我が家と同じく家事ができなくなり妻が娘になりました。

過去の3年間は、話には聞いていたが認知症患者との生活は想像を絶する日常の連続で、何故解ら

ないの！何故そうなの！何故できない！戸惑いの連続で感情を抑えきれず声を荒げ、妻のさびしそうな顔を見て悪かったと反省の連続であった。今は平常心を保つよう努力しているが私がこんな事までと、介護のやり方に惨めな自分を感じ情けなく、神を呪い自分の運命を呪い、一人涙を流す夜もありました。困った時のことわざに「遠くの親類より近くの他人」という言葉があるが、人情希薄の現在弱者となった自分達の窮状を助けてくれるのは、ケアマネジャーさんなくして、私達の生活は成り立たない、幅広いネットワークを使い、あらゆることに対応して戴き介護する私の心のケアまで気遣って戴き、大変心強い味方が傍にいる。いまだ主夫1年生ではあるが、これからもわが娘を支えて優しい介護に努めたい。平穏な暮らしの日々が流れることを願いながら。

佳作

「歯はあっても！」

田中 信子 様

感動介護を行った事業所

株式会社グツディ

デイサービスセンターグツディ

毎年6月になると8020運動に始まる口腔ケアが話題になります。80歳になっても20本の歯を保ち年をとっても自分の歯で食事が摂れるようにとの提唱です。

今年96歳になる母はいまだに25本の歯があります。この事は母にとって自慢の種でした。しかし、歯があっても食べ物を上手に噛むことができないのです。顎、舌、頬、喉の筋力が次第に衰えてきました。加えて唾液が殆ど出ない病気にかかっています。呑み込みが非常に困難になりました。私は次第に母の食事作りが苦痛になり始めましたが食べる事は元気の源、幸せを感じる素敵な時間です。のど越しを良

くするために、野菜は煮込んでポタージュ状に、又時には細かく刻んでとろみを付けたりします。美味しそうに食べてくれた時や完食してくれた時には大きな声でバンザイと言ってしまいます。週4回通っているグツディさんではそんな母にきちんと対応して下さりとても感謝しています。刻み食、流動食、どちらも試食させて下さり、母にとってどの食事形態が相応しいか検討してくださいました。又、食事時間もせかさず、本人が納得する過ごし方を見守ってくれているようです。これは高齢者への尊厳を受け止めてくださっているのだと思います。

昨年夫を病気で送り、私自身の病気もあつて、思うように気持ちコントロールする事ができずにいました。

一人で介護する私の状況を職員の方々が理解してくださり、とても力になりました。

佳作

「ばあちゃんの顔みしり」

嶋田 弘子 様

「トイレに入ってるの、誰？」 「ばあちゃん？」 「ほーい」 外からばあちゃんが返事します。なら一体トイレにいるのは誰なんだ！ 「ジャー」 流水音と共に女子中学生が飛び出してきました。「おなか痛くなって、おばあちゃんに頼んで、トイレ借りました。」 うちのばあちゃんの認知症歴は10年。毎朝外に出て、登校することも達を見ては「かわいね。」と、毎朝、新鮮な喜びを感じています。今まで何度も、一人で外に出ては、まっすぐ歩き通し、歩けなくなって、誰かが家まで連れ戻してくれています。私たち家族の知らない、ばあちゃんの顔みしりが、いてくれるようなのです。

家まで送ってくれた方、お礼も伝えられています。本当にありがとうございます。ばあちゃんに、毎朝あいさつしてくれる方々がいらっしやることを

知り、できるだけ家の前を通る方々には、あいさつするようにしています。どの方が、助けて下さった方か、わかりません。あるいは、今後助けていただく方になるかもしれません。

転んで腰痛になり、一人で外に出なくなり、あいさつして下さる方に、「おばあちゃん、大丈夫？」と声をかけて頂くこともあります。大丈夫。少しずつよくなっています。明日の朝にはまた、家の前に出て、私たちをあわてさせてくれることでしょう。



株式会社ケアネット徳洲会

グループホーム円蔵 姫野 里美 様

ホームに入居して5年が経過されたある日、ふとした事で入院となった。当初は2週間後に退院の予定であったが、持病の悪化に加え食事を摂らず嚥下能力低下との判定。医師より家族と私に今後の方針について胃瘻等の提案があった。高齢者にとって良くなる選択の場面であるが、残念ながら胃瘻等になった場合はホームに戻れない。家族はホームに戻る事を強く希望されるが食べなければ戻れない。そんな中、ホームのスタッフが面会に行くと、目をクリクリし笑顔でホームにいる時と同様に一方的に喋り続ける。そんな姿を見てこれだけ口が動くのに本当に食べられないのかと疑心暗鬼の中、いつも見ているスタッフの「ホームに戻ったら食べると思う」と

いう確固たる勘に賭けてみようと思った。本当は特にないのだが「食べさせ方にコツがある」と医師に食い下がり、再評価を依頼した。

1週間後の再評価までご家族・歯科医による口腔リハビリの実施。評価当日は日頃介助しているスタッフを同伴し病室へ、担当医師・看護師数名の中で食事開始。緊張感が漂う中、スタッフが声をかける。調子が良い合図の目をクリクリとしている。スプーンに味噌汁をいれ名前を呼びながら口元へ持つていくと大きく開けしつかりと飲み込む。続けてご飯、おかずもパクパクと食べた。医師・看護師のポカンとし驚いた表情を見て心の中でガツポーズ！病院の看護師の介助では口すら開けなかったのにホームスタッフの介助では口を開け食べた。口には出してくれないがちゃんと私たちをわかってくれている。勝負毎ではないけれど、医者にも看護師にも勝った気持ちでなんだかとても嬉しかった。

佳作

「沈黙に秘められた絆」

介護老人福祉施設平塚富士白苑

根本 祐衣 様

二年前に介護度5で入所されたT様は、職員の手助けがなければ生活が成り立たない状態でした。ある日、ご主人の容態が芳しくないと言われ、緊急で搬送されたご主人は、意識が戻らずに亡くなりました。ご主人の訃報を聞き、T様は「M子だろ」と仰り、T様は驚かれたのか一瞬視線を周りへ移すも、声掛けに頷き、しつかりと反応されました。私達はT様が意思疎通や認識が困難な方だと思い込み、

今の状態だけに目を向けていた事に気づかされました。私はT様の事をもっと知りたいと思い、改めて生活歴を辿ってみました。子宝こそ恵まれなかったものの、仲の良いご夫婦だったそうです。あの一時間の沈黙は、互いを認識できなかったのではなく、50年の夫婦の歴史を手繰り寄せていたのかもしれない。「M子だろ」の一言に込められたご主人の思い、それに頷かれたT様の思い。ご利用者の過去現在、そして未来から繋がる関わりをすることが介護員の使命と喜びであることを教えて頂いた貴重な経験でした。1カ月後、T様は穏やかに御逝去されました。御健在のうちに再会させることができてよかったです御親族様からも感謝の言葉を頂きました。



感動介護を行った事業所 社会福祉法人茅徳会

特別養護老人ホームつるみね

「この家に泥棒がいるんだよ。」と真顔で言うのは私の曾祖母の正子ちゃんです。曾祖母は、73歳で、脳梗塞を繰り返して、アルツハイマー病になりました。物忘れと物盗られ症、服がうまく着れない等の失行。大好きだった正子ちゃんは、どんどん別人のようになりました。特にひどかったのは、物盗られ症。泥棒がいると信じて、眼鏡や通帳を布団の間等に隠します。大切なものが次々と行方不明となり大混乱です。また、困ったのは、家の破壊と弄便。イライラして、障子を枠ごと壊し、朝も夜も大声で叫ぶのです。でも弄便は、もっと辛いのです。買物から帰ると、オムツの便を丁寧に壁に塗る曾祖母がいました。皆が疲れ切っていた時、今度は祖母が倒

れました。パニック障害です。祖母はすぐに良くなりましたが、ほかにも持病があり無理はできません。しかし、曾祖母は胃痙になり、もともと手がかかるようになりました。入退院を繰り返して、体重が30キロ台になった時、特別養護老人ホームにお世話になりました。そこでは、病気のことや対処法を詳しく話してもらえ安心しました。認知症の知識がなかった私達家族を助けてくれた病院の先生や介護福祉士、看護師の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。私は、物事がわからなくなり、小さい子のように不安がる正子ちゃんを暖かく優しく落ち着かせてくれた介護福祉士の姿を一生忘れません。



聖和学院中学校生徒

感動介護を行った職員 医療法人社団清光会

介護老人保健施設セアラ逗子

小田垣 哲さん

今は元気な私の祖母。彼女は八十歳ですが、とても元気です。そんな祖母は二年前、変形性膝関節症という膝の病気で歩けなくなっていました。そこで右膝、左膝に分けて違う期間に四週間ずつ入院して手術を受けました。

このように、ずっと元気だった人が急に病気になるということは珍しくありません。若い人だって私達だって明日何があるかわからないのに、「なんか自分は大丈夫な気がする」と思ってしまうます。

祖母は手術で両膝に人工関節を入れました。やはり手術後すぐに歩くことは難しいらしく、一週間に二回、介護老人保健施設へ通ってリハビリをして

いたそうです。完全に後遺症がなくなることはありませんが、職員の方も祖母を励ましてくださっていたようで、本人もリハビリを続けました。私たち家族と今まで通り暮らせるように。

退院した後、私の家のあらゆるところに手すりが付けられました。祖母はまだ歩くことが難しいようでした。二年経った今でもそれは変わりません。私は、正直おせっかいな祖母が好きではありませんでした。それが愛だということはわかっていても、うるさいと感じてしまうことがほとんどでした。でも、辛いリハビリを乗り越えて私達に心配をかけたくないという気持ちを知ったとき、今まで少し反抗的な態度をとっていた私ですが、これからはもつと祖母を手伝いたいと、そう思いました。



▽第6回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評△

平成24年から始まった「かながわ感動介護大賞」も、今年で6年目を迎えました。今回の応募作品数は、利用者ご本人及びご家族から13件、職員から11件のご応募をいただきました。

応募者のお名前を拝見していて、昨年もお応募してくださいました方の名前を見つけました。本事業への応募を楽しみにしておられることが想像できるとともに、ご家族はじめ、様々な関係者に支えられて元気に日々を送られていることをうれしく感じました。また、ある介護施設では、職員が施設内で見聞きした利用者や職員のふれあいのエピソードを毎月提出し、会議で報告し合っていることをお聞きし、本事業の趣旨に沿った実践の広がりを感じ、感謝しています。

さて、本年度の特筆すべき内容として、本事業を教育の一環として取り入れた中学校から応募作品が届けられたことをご報告させていただきます。届けられた41名の中学生の応募作品から、10代前半の若い人たちが介護をどのようにイメージしているかを感じ取ることができ、大変参考になりました。作品の中には、核家族化の中でお年寄りとの交流が少ない現実が垣間見られた反面、離れて暮らすおじいさんやおばあさんを思いやる気持ちも現れています。また、件数は少ないですが、同居するおじいさんやおばあさんの老いの姿を、戸惑いながらも率直に表している作品もあり、感慨深く読ませていただきました。今回は、その中から2作品を紹介させていただきました。

本事業が、介護する家族や利用者本人、介護職員等関係者の楽しみの一つとなり、様々な分野に広がっていくことを願っています。

かながわ感動介護大賞表彰選考会座長 峯尾 武巳

◆かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿（◎…座長）

東海大学 准教授 東 奈美
一般社団法人
神奈川県介護支援専門員協会 副理事長 石田 貢一
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 会長 伊東 一郎
公益社団法人 神奈川県社会福祉士会
福祉サービス第三者評価事業運営委員会 副委員長
高島さち子
田園調布学園大学 講師 増田いづみ
神奈川県立保健福祉大学 教授 ◎峯尾 武巳

◆かながわ感動介護大賞実行委員会（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
神奈川県特定施設等連絡協議会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
川崎市老人福祉施設事業協会
公益社団法人神奈川県社会福祉士会
公益社団法人神奈川県介護福祉士会
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
神奈川県立保健福祉大学
株式会社テレビ神奈川
株式会社神奈川新聞社
横浜エフエム放送株式会社
神奈川県

◆かながわ感動介護大賞協賛法人（50音順）

一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会

一般社団法人神奈川県老人保健施設協会

医療法人社団平和会 浜野辺総合病院

神奈川県遊技場共同組合・神奈川県福祉事業協会

株式会社アオバメディカル あおば福祉サービス

株式会社いわしや西方医科器械

株式会社お元気福祉サービス

株式会社ケアバンク

株式会社サロンデイ

株式会社セレモニア 介護付き有料老人ホームクレッセ川崎

株式会社ソーケイ グループホーム百合ヶ丘

川崎市老人福祉施設事業協会

公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

公益社団法人鎌倉市医師会

公益社団法人横浜市福祉事業経営者会

合同会社Run 訪問介護run

社会福祉法人厚木慈光会 睦合ホームやすらぎ・睦合ホームすこやか

社会福祉法人育生会 よつば苑

社会福祉法人一石会

特別養護老人ホーム白鷺苑 一樹荘デイサービスセンター

ケアプランセンターえんじゅ こぶし荘デイサービスセンター

社会福祉法人一燈会

社会福祉法人永寿会 特別養護老人ホームかりん

社会福祉法人恩賜軒団神奈川県同創援護会

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

社会福祉法人鎌倉静養館

社会福祉法人共生会 藤沢養護老人ホーム・藤沢特別養護老人ホーム

社会福祉法人光温会 光温会温水ケアセンター

社会福祉法人幸済会 特別養護老人ホームかわしまホーム

社会福祉法人三栄会 特別養護老人ホームベルホーム

社会福祉法人湘南福祉協会

社会福祉法人松緑会 松みどりホーム

社会福祉法人清流会

社会福祉法人積善会 ルビーホーム

社会福祉法人竹沢積慈会 ボーナビール二本松ケアセンター

社会福祉法人たちばな福祉会 老人デイサービスセンター芙蓉の園

社会福祉法人竹生会 芭蕉苑介護老人福祉施設

社会福祉法人中心会

社会福祉法人道志会 道志会老人ホーム

社会福祉法人東洋会

社会福祉法人藤嶺会 特別養護老人ホーム弥生苑

社会福祉法人八寿会 特別養護老人ホームみどりの園

社会福祉法人ハマノ愛生会

社会福祉法人百鷗 葉山清寿会・逗子清寿会

社会福祉法人二津屋福祉会 ロゼホームつきみ野

社会福祉法人母子育成会

社会福祉法人三崎二葉会 ケアセンター南下浦羊の家

社会福祉法人みどりの風 介護老人保健施設みどりの杜

社会福祉法人大和清風会

社会福祉法人湯河原福祉会 シーサイド湯河原

社会福祉法人横浜長寿会 特別養護老人ホーム上郷苑

社会福祉法人栗山会 やまびこ荘

城南信用金庫

トヨタカローラ横浜株式会社

有限会社スマイル介護サービス

有限会社みどりケアサービス みどりケアデイサービス



公益社団法人

かながわ福祉サービス振興会



社会福祉法人日本医療伝道会

衣笠病院グループ



すいとぴー

人と向き合い 人に寄り添う

日総ニフティ株式会社




神奈川県済生会



一般財団法人

シニアライフ振興財団

 神奈川県住宅供給公社グループ



TUK 東洋羽毛



社会福祉法人
神奈川県社会福祉事業団



社会福祉法人 特別養護老人ホーム

敬心会 栗原ホーム

穏やかな

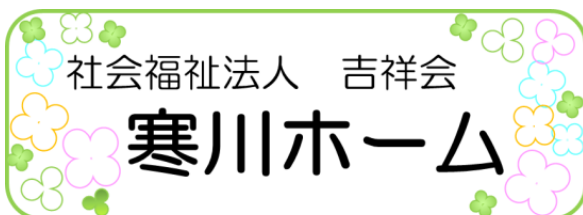
明日へ

スミカム

SUMI CALM

ポンジュース

株式会社えひめ飲料東京工場



在宅介護サービス

若武者ケア



高齢者総合福祉施設



社会福祉法人 小田原福祉会



社会福祉法人
神奈川県きょう さい かい匡済会



社会福祉法人セイワ
介護老人福祉施設みやうち



※協賛団体一覧及びロゴは、各協賛団体の希望する方法で掲載しています。

—ご協賛いただきありがとうございます—

随時受付中！

かながわ感動介護大賞 感動介護エピソード募集

今度はあなたの「感動」介護のエピソードを
伝えてみませんか！
職員の方や感動的な場面を直接見聞きした方の
「感動」介護のエピソードも
募集しています。

ご応募お待ちしております。

※詳しくは、
県ホームページ
「かながわ感動介護大賞エピソード募集」
をご覧ください。



かながわ感動介護大賞実行委員会



神奈川県

保健福祉局福祉部高齢福祉課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

電話(045)210-4835 (直通)